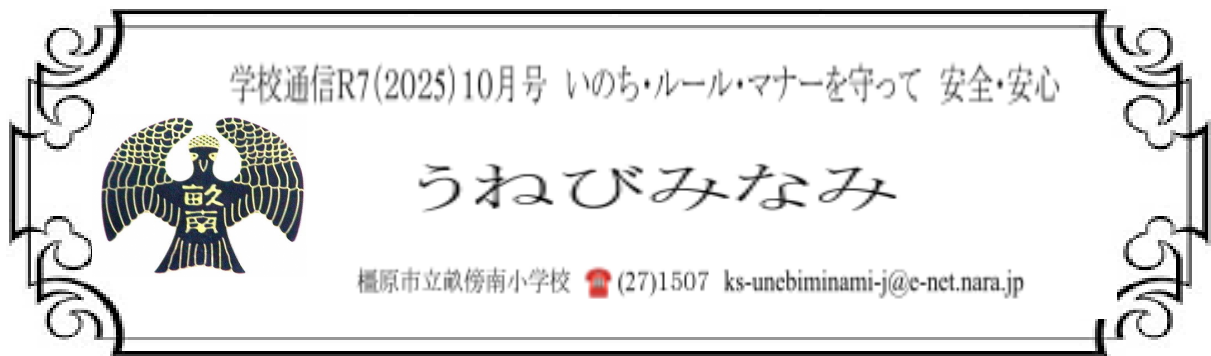




ちいさなてのひらでもしあわせはつかめる

ちいさなころにもしあわせはあふれる

「ちいさなてのひらでも」より

不審者対応訓練をしました



児童が放送の合図で教室内にバリケードを作り、身を潜め、担任以外の教職員は、警察が到着するまで不審者を取り押さえるという訓練をしました。

「さすまたの使い方」や「不審者との距離のとり方」「大声で威嚇し、凶器を持っている時点で不審者とみなしていいこと」など、事前に職員研修で橿原警察署にご指導いただいたことをもとに実践しました。児童が怖がらないように不審者は設定しませんでした。訓練の様子や態度は真剣でした。教職員は、

「安心して学校生活を過ごすため」に訓練など経験を積み、一層の緊張感をもち続けることが必要不可欠です。

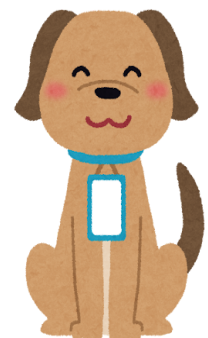
そこで、下記の内容を確認させていただきます。どうぞ、ご協力をお願いします。

児童の安全のために

橿原警察署のご指導のもと、児童の安全確保をより確かなものにするため、学校へご来校いただく皆様に「来校証」の着用の徹底をお願いすることになりました。

本校では、日頃から不審者対策に努めていますが、児童が安全に学校生活を送るためには、保護者の皆様のご協力が不可欠です。

- ① ご来校の際には「来校証」を着用していただく。
- ② 万一お忘れの際は必ず職員室で受付を済ませ来校証をお受け取りいただきますようお願いいたします。



顔なじみの職員がおりましても、来校証がない場合は、別の職員が声を掛けさせていただくことがあります。これは、不審者との区別を明確にし、児童を守るための対応です。ご面倒をおかけしますが、何卒、本取り組みの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

言葉の意味を考える ～言葉のナイフで人を傷つけてはなりません～

「うねびみなみ6月号」でも掲載しましたが、普段から「死ね」「うざい」「きもい」などの人を傷つける言葉を簡単に使ってしまう、口癖になっている人もいます。その中に「不審者」という言葉も含まれています。大人が子どもたちを守るために使用している言葉の意味を、取り違えて使用しています。本当に身の危険を感じる時と場合の判断が難しいこともありますが、たまたま通りかかった人に平気で言う時もあり、非常に失礼で相手を傷つけます。

理由なしに「不審者」と言われる側の悲しい気持ちを理解している子どもは、決して間違えた言葉の使い方はしません。人権集会や学級指導で何度も繰り返し学習、指導をしていますが、未だに人に向かって簡単に「不審者や。」という子どもも少なくないように思われます。学校でも継続して「言葉の意味を考える」ことを学習していきますが、ご家庭や地域でも、よく考えて使用することが習慣となりますようご指導とご協力、ご支援をよろしくお願いします。



優しさがあふれる日常の一コマ



4月に実施した学力・学習状況調査(6年生対象)の児童質問紙の回答から、本校児童の生活習慣(毎日朝食を食べる 同じ時間に起床・就寝)や自己有用感等(幸せを感じる 相談できる 自分に良いところがある)が全国平均よりも高いことがわかりました。このデータは参考の一つに過ぎませんが、ご家庭でのご支援に感謝します。そこで、普段の学校での様子をご紹介します。

慌てて脱いだ誰かの上靴を揃える。誰かがポタポタとこぼした廊下の牛乳を自分のティッシュで拭く。家での出来事ではなく、学校での様子です。公共施設で人の後始末をするということは、大人でも難しいものです。学校のリーダーである6年生が進んで、さりげなく模範的な行動をしているおかげで、校内の空気が澄んでいます。「人が困らないように」と考えて行動するということは平和への思いにつながっています。「自分たちが、してもらってうれしかったことを下学年にする」という本校の校風は誇りにほかなりません。